

寺崎組新聞

第百二十号

夜露の今夜もありませんか。

第154回組合報告

九月二十日(土)一日目
十一時四十三分平泉前沢出口集合
地へ到着。誰もいない、とそこへ赤
いバイクが。赤貧さんだった。昨日
フェリーで仙台上陸し海側を通っ
てきたらしく、やはり集合地が不安
でそこらへんを走っていたらしい。
定刻通り組長到着。今回は珍しい？
自走でここまで来たらしい。前回の
下見をしてきたらしい。しばらく
してオガタさん到着。一ノ関駅前の
パーキングに車を停めてきたらしく
タイヤがおニューでヒゲはまだ取れ
ていなかった。次に来たのは地下鉄
さんだが様子が違う。新車だ。ざわ
めく一同。ヤマハWR250R。今
回の旅が馴染み運転の為、ピカピカ
である。一同、新車御拝見。「リア
のナンバー位置がおかしい」と意見
が一致。構造が複雑で変えられなか
ったらしい。新車談議も一通り終わ
り、組長がゴミ浦さんからのメール
受信。築館から高速に乗ったらしい
とのこと。出発十分前到着。七ヶ宿
の道の駅のトイレがあまりにも快適
で遅れてしまったと。昨日は七
ヶ宿の山の中に野宿していたらし
い。

十四時三十分、一休み。道標には
普通林道夏山線とあり、「普通林道
って？他に何林道がある？」としば
の談議。組長にこの場所を教えて
もらおうと、夏山と言う場所から上
って来たところらしい(大針森山林
道)。一服を終え再び藪の中へ。林
道の脇から伸びている草。枝に殴ら
れながら前に進むと、今度は下が見
えない程の丈がある草が走路を塞
ぐ。滑るタイヤをコントロールしな
がら舗装路の手前まで来ると後続車
が来ない。しばらくするとゴミ浦さ
んと赤貧さんが合流。どうやらゴミ
浦さんがフロントを取られ転倒し、
避けようとした赤貧さんも転倒。W
転倒したらしい。後で、赤貧さんが
「二人合わせての最高齢W転倒記録
だ！」と言っていた。転んでもた
では済まない、さすがツワモノで
ある。しかし、転倒に代償はつきも
の。ゴミ浦さんは、右ブッシュガー
ド破損、赤貧さんはミラー破損とポ
ールを縛っていた紐紛失。大転倒に
もかわらず怪我がなくてよかつ
た。二人が合流し再スタート。ちょ
こつと舗装路を走り再びダートへ。
十五時三十分、大鉢森山林道の
探石場跡地？で本日の宿となる。本
日走行距離45.3km。各々テント
を張り準備が出来たら宴の始まり。
「どっち回り？」「時計回りだろー」
「北半球と南半球では回り方が違
う。」「時計は一緒だろー」などと
会話が進む中、自分が新スタート
取り出すと、「あつ、原始人！」と
地下鉄さん。前回でピーク1が不調
になったのでオプティマス123を
購入し持ってきたからだ。火を付け
ると「うるさいなあ」のブイキング
の嵐。火を消すと「静かになった」
と安堵の声。これからも迷惑をお
かけしますのとお許しを。そうこう
している間に肌寒くなってきた。久
しぶりに焚火をすることに。薪
になる木はたくさんあり、適当な大
きさに切っていると体が温まり一時

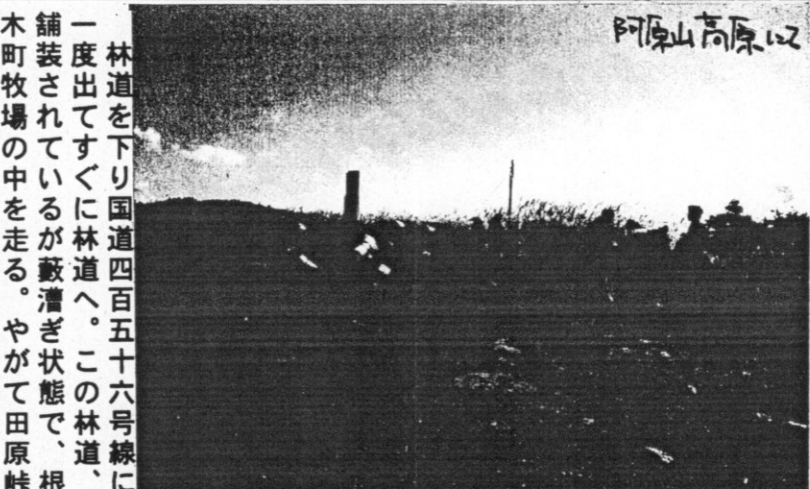


地下鉄さんと食材がカブル。塩ホ
ルモン。歯に難がある方がおり不評
だったが、ほとんどなくなり残りは
朝食へ。今回、ゴミ浦さんは仕事の
都合でノートパソコンを持ち込み。
中に入っていた曲で合奏。ゴミ浦
さんは前日の夜、野宿だったので一
人カラオケで熊避けをしていたらし
い。二十時半、組長就寝。見届けた
自分も就寝。宴は二十二時頃まで続
いたそう。ちなみ、夜中用を足し
に外に出ると空には天の川が見え
た。空気が澄んでいてよく見えた。
テントに入りしばらくすると脇でガ
サゴソガサゴソ、獣が通ったらしい。
鹿の鳴き声もよく聞こえた。



的寒さ解消。暗くなると同時に薪に
着火。焚火を囲みながら宴は続く。

九月二十一日(日)二日目
五時、野宿の朝は早い。夜露に濡
れたテントから這い出て挨拶。ゴ
ミ浦さんは朝から絶対調。朝飯を取
り終わったのはラジオ体操前。朝の
儀式を終え撤収準備。グッチョグツ
チョのフライシートを僅かな日差し
が当たる場所で乾かす間に「沢が流
れているので、水の確保をしよう」
と組長の一声で崖を降りて水汲み。
最初藪だった所にいつの間にか道が
。水への執念恐るべし。パッキ
ングを済ませ、焚火を始末し、地下
鉄さんの新車前で集合写真。出発前
のアイドリング。ゴミ浦さんのエン
ジンがかからない。「燃料コック、
閉まっているんじゃない」と地下鉄さん。
傍に行き確認すると「やっぱり！」
と指摘通り。無事エンジンがかか
り出発したのは八時十七分。



十時半、停車。夕日山付近の林道
らしい。なぜかオガタさんから始まり、赤貧さ
んがオガタさんから始まり、赤貧さ
んのメッシュのもの、組長の生産の
終わったモンベルのもの、地下鉄さ
んと自分のはお互いどっこいどっこ
いのポロポロのものなど話ながら時
間を潰した。草倉林道を経由し国道百
七号線へ一旦出てまた林道へ、また
もや地理的にどこを走っているのか
わからないがこの林道は整備されて
いて走りやすい。十一時二十分昼食
場に着。暑い。秋なのに暑い。汗
をかきかきラーメンを吸る。食べ終
わり林道の日陰に退避。ゴミ浦さん
の用が済み終わり「しようがねえ、
走るか。」と組長の一言でリスタ
ー

林道を下り国道四百五十六号線に
一度出てすぐに林道へ。この林道、根
木町牧場の中を走る。やがて田原峠
に出て、国道二百五十二号線をちょ
こつと通過して左折、走った先には
阿原山高原の宮沢賢治歌碑がある展
望台だった。組会でこのような観光
地みたいな所に来るとは意外。素晴
らしい景色が拝めた。九時二十八分、
再スタート。阿原山林道を走る。少
々荒れている。分岐で後続が来ない。
オガタさんが「こけちゃいました」
と遅れてやってきた。リスタートし
本日も藪漕ぎに遭いながら越路峠
へ。左折し国道十号線を北上、国道
三百九十七号線とぶつかり右折、ト
ンネルを三つ潜って道の駅種山ヶ原
の前の左折、種山高原星座の森キャ
ンプ場の前を通りすぎダートへ入
る。支線が多くどこを走っているの
かわからなくなる。



いくつもの林道を走って方向
さえわからぬ。舗装路に出て走っ
ていると組長突然の失速。と、目の
前にカモシカの親子が道路を横断
中。珍客を見届けて土室林道に入る。
最初はまともな林道だったが、途中
から水切り溝がやたらにあり、スタ
ンディングしなないとリアタイヤの突
き上げで体に衝撃が加わる。座って
立ってを繰り返して舗装路に出る。国
道二百八十三号線に出るとやたらカ
メラを構えた人達がいる。後で知っ
た事だが復興事業でSL銀河C58
が運行されていたらしい。そんなこ
とは知らないわけで遠野の町へ買い
出しに向かう。スニーカーを買い
て買い出し及び水確保。オガタさん
は先程の転倒でブッシュガードのナ
ットが脱落紛失し、隣のホームセン
ターへ。駐車場に戻ると「赤貧さん
がさっきの林道でテントを落とす
きた」と組長がボソリと。土室林道
の激しさを物語るアクシデントだっ



九月二十二日(月)最終日
今日もまた五時起床。昨日の朝よ
りも冷え込んだ。今日はオガタさん
が絶対調。まずいまずいと言ってい

た。買い出しを終え、シエルのシエ
ルフ(ゴミ浦さん談)で給油し、来
た道を戻る。アップダウンを繰り返
すと有りました！赤貧さんのグツ
3点。でももう一つポールが入った
袋がない。ちょこつと走ると発見。
でも組長、ゴミ浦さんはスルー。後
で聞いたら気が付かなかったらし
い。そんなこんなで小物見山長洞付
近の木材集積場を宿とする。十五時
五十分着。本日走行距離141km。
びつちよびつちよのテントを広げ
張る。「風呂があるぞ！」と組長が
言うが日が陰った現在は肌寒く、み
んなキャンセルして宴会開始。昨日
より寒いので、本日も焚火を開始。
昨日より狭い宴会場。テントが近く
小さい火なら大丈夫と始めるが酔え
ば歯止めが利かず段々と大きくなっ
た。地下鉄さんが「この酒まじい！
この酒も同じ味でまじい！」の連発。
すかさず組長、「三口飲めばわから
なくなる」となだめる。重きお言葉
頂戴しました。いつものように名車
の話で盛り上がり、茂木のホンダ博
物館の話が出る。赤貧さんが茨城県
だけ行った事がないと言う事から、
来年は茂木のホンダ博物館とか名古
屋のトヨタ博物館の見学を組会に取
り入れるかと組長の提案。酒の席の
お話。実現するかは来年度の組会日
程が決まるまでお楽しみに。まだ二
十時前だが睡魔に襲われテントイ
ン。しばらくすると外から「三倉が
いない」「組長より先に寝た」とか
聞こえてきたが睡魔には勝てずみ
ませんお先します。また夜中に用足
しに出たが天の川が拝めた。